



Title	ハワイ大学の日本語教育について
Author(s)	山本, 進
Citation	日本語・日本文化. 1997, 23, p. 135-135
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/9474
rights	本文データはCiNiiから複製したものである
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

<調査報告>

ハワイ大学の日本語教育について

山本 進

I ハワイ大学について

1 概観

ハワイにはハワイ大学 (University of Hawaii)、ホノルル・シャミネード大学 (Shaminade University of Honolulu)、ブリガム・ヤング大学ハワイ校 (Brigham Young University, Hawaii Campus)、ハワイ・パシフィック大学 (Hawaii Pacific University)、フェニックス大学ハワイ校 (University of Phoenix, Hawaii Campus)、ハワイ・パシフィック大学 (Hawaii Pacific University)、関西外国語短期大学ハワイ学舎 (Kansai Gaidai, Hawaii College、1998年に閉校予定)、東海大学ホノルル校 (Tokai University at Honolulu)、東京ホノルル国際大学 (Tokyo Honolulu International College) がある。ハワイ大学付属短期大学 (Community College) のいくつかを除いて、いずれもオアフ島にあり、ハワイ大学以外はすべて私立大学である。

ハワイ大学は1907年、College of Agriculture and Mechanic Arts という農業・機械技術訓練学校が、トマス・スクエア（現在のホノルル美術館）にできたのに始まる。後に、現在のマノア校の地に移り、1911年にCollege of Hawaiiに改名、1920年からUniversity of Hawaiiになった。

2 ハワイ大学機構について

ハワイ大学は本校とも言うべき母体のマノア校、ヒロ校、西オアフ校、7つの短期大学を合わせてハワイ大学機構 (UH System) と呼ぶが、このシステムの傘下に入る学生数が5万人以上で、他の私立大学の学生数合計が1万1千人ぐらいなので、いかにハワイ大学が大きいかが分かる。

学生数にしてハワイ大学機構の約39%を占めるマノア校には、学部課程88、修士課程85、博士課程49がある。

① 学生数

1995年秋学期の学生数は以下のとおりである。

マノア校	19,801	内訳	正規学部生	13,050
			正規大学院生	5,220
			その他の学生	1,531
ヒロ校	2,872			
西オアフ校	716			
短期大学	26,853			
合計	50,242			

また、学生の人種別では日系が20%、白人が20%、フィリピン系が15%、ハワイ人が13%、その他が32%となっている。年齢別では、18~21才が当然のことながら最も多く37%、22~29才が35%、30~59才が25%、18才以下が2%、60才以上も1%いる。

② 教職員数

1995年秋学期の教職員数は以下のとおりである。

	教員	職員	合計
マノア校	2312	2829	5141
ヒロ校	224	181	405
西オアフ校	34	16	50
短期大学	1221	630	1851
大学機構	0	420	420
合計	3791	4076	7867

また、教員の人種別では白人が59%、日系が18%、中国人・韓国人が9%、ハワイ人が5%、フィリピン人が2%、その他が7%となっている。年齢別では、40~49才が最も多く36%、50~59才が29%、30~39才が19%、60才以上が13%、30才以下は3%である。

以上まとめると、ハワイ大学では20才ぐらいの日系の学生が45才ぐらいの白人の教員の授業を受けているというのが、普通の風景であるということだろうか。

3 ハワイ大学の学部について

大学は20部門に分かれている(ABC順)。

- ① 建築学部 (School of Architecture)
- ② 文理学部群 (Colleges of Arts and Sciences)

この学部群は、以下の4学部に分かれている。

- (1) 芸術・人文学部 (College of Arts and Humanities)

この学部に属している学科は、アメリカ研究学科、芸術学科、音楽学科、哲学学科、宗教学科、スピーチ学科、演劇・ダンス学科である。

- (2) 言語・言語学・文学部 (College of Languages, Linguistics, and Literature)

東アジア言語文学科 (East Asian Languages and Literatures) はこの学部に属している。その外に、英語・英文学科、第二言語としての英語学科、ヨーロッパ言語文学科、インド太平洋言語学科、解釈・翻訳研究学科、言語学科、マノア・ライティング・プログラム、国立外国語資源センター、マルチ・メディア・ラボがある。

- (3) 理学部 (College of Natural Sciences)

- (4) 社会学部 (College of Social Sciences)

- ③ 経営学部 (College of Business Administration)

- ④ 生涯教育・公共福祉学部 (College of Continuing Education and Community Service)

夜間学部、非単位コースなどを担当し、年長者の大学教育の責任も持っている。その他、一般向け講演会、各種短期プログラムも推進している。

- ⑤ 教育学部 (College of Education)

- ⑥ 工学部 (College of Engineering)

- ⑦ 大学院 (Graduate Division)

- ⑧ ハワイ・アジア・太平洋学部 (School of Hawaiian, Asian and Pacific Studies)

- ⑨ 健康科学・社会福祉学部 (College of Health Sciences and Social Welfare)

- ⑩ 法学部 (School of Law)

- ⑪ 図書館情報学部 (School of Library and Information Studies)

- ⑫ 医学部 (School of Medicine)
- ⑬ 看護学部 (School of Nursing)
- ⑭ 海洋・地球科学技術学部 (School of Ocean and Earth Science and Technology)
- ⑮ 公共健康学部 (School of Public Health)
- ⑯ ソーシャル・ワーク学部 (School of Social Work)
- ⑰ 特別プログラム部 (Special Program)
- ⑱ サマー・セッション部 (Summer Session)
- ⑲ 観光業管理学部 (College of Travel Industry Management)
- ⑳ 热帯農業・人的資源学部 (College of Tropical Agriculture and Human Resources)

他に、研究機関としても各種の施設がある。大学直属の機関として主なものをあげると、天文学研究所、環境センター、ライオン (Lyon) 植物園、地球物理学研究所、海洋生物学研究所、産業関係センター、生化学研究センター、人口遺伝研究所、社会科学研究所、水資源研究センター、ハワイがんセンターなどがある。

以上のほか、大学内には各種の研究機関が多くあり、中には別に一つの建物を占めるほどの規模のものもあるが、個人研究室イコールセンターという規模のものももちろんある。

II 東アジア言語文学科

1 学科課程

東アジア言語文学科は中国語、日本語、韓国・朝鮮語で全米でその種類の最も大きい学部であり、コースの多様性において最も大きな学科課程である。

学部生レベルでは、言語技能コースは言語の話し言葉・書き言葉両方の面で高いレベルの上達を開発するのを目的としている。その他のコースは、東アジアの文学と言語そのものの分析・記述の初歩的なものから高度なものまでカバーしている。大学院生プログラムは、主として、文学史と文学批評だけではなく、言語史、言語構造、教育学、および社会言語学における高度なプロの訓

練を学生に提供している。

ほとんどの学生が言語コースに一般教養の外国語科目を満たすために登録している学生がほとんどであるが、研究や大学院での研究のために中国語、日本語、又は韓国・朝鮮語を使用するのを目的としている学生も多くいる。学部卒業後すぐに就職しようと思っている学生には、それらの言語、特に日本語、に上達していると、ハワイの観光業や国際ビジネスで採用されるときに有利であるようだ。

2 カリキュラム

「日本語」(Japanese)として提供されているものは次のとおりである。

JPN 100 初級日本語(特別)(3単位) 101と同じ内容。既習者用。

JPN 101 初級日本語(4単位) 毎日1時間の授業プラス LL。

JPN 102 初級日本語(4単位) 100又は101の続き。

JPN 105 速習初級日本語(8単位) 每日2時間の授業プラス LL。101と102を1学期間で学習する。

JPN 201 中級日本語(4単位) 101及び102の続き。毎日1時間の授業プラス LL。

JPN 202 中級日本語(4単位) 201の続き。

JPN 205 速習中級日本語(8単位) 每日2時間の授業プラス LL。201と202を1学期間で学習する。

JPN 211 ビジネス・観光業のための二年生日本語(4単位) 毎週5時間の授業プラス LL。

JPN 212 ビジネス・観光業のための二年生日本語(4単位) 211の続き。

JPN 258 海外での中級日本語(4単位) 日本での日本語学習。(後述)

JPN 259 海外での中級日本語(4単位) 日本での日本語学習。258の続き。

JPN 301 三年生日本語(4単位) 201及び202の続き。毎日1時間の授業プラス LL。

JPN 302 三年生日本語(4単位) 301の続き。

JPN 305 速習三年生日本語(8単位) 每日2時間の授業プラス LL。201と202

を 1 学期間で学習する。

JPN 307 特別読み書き日本語（3 単位）日系の学生用。

JPN 308 特別読み書き日本語（3 単位）307 の続き。

JPN 350 日本語学概論（3 単位）

JPN 358 海外での三年生日本語（4 単位）日本での日本語学習。

JPN 359 海外での三年生日本語（4 単位）日本での日本語学習。358 の続き。

JPN 370 日本社会における日本語（3 単位）敬語。

JPN 399 三年生読解指導（単位数は不定）専門読解指導。

JPN 401 四年生日本語読解（3 単位）301 及び 302 の続き。

JPN 402 四年生日本語読解（3 単位）401 の続き。

JPN 405 速習四年生日本語読解（6 単位）毎日 2 時間の授業プラス LL。401 と 402 を 1 学期間で学習する。

JPN 407（選択）四年生原書講読（3 単位）

JPN 407B 新聞・雑誌／JPN 407C 社会科学／JPN 407D 人文科学／

JPN 407E 現代文学

JPN 415 日本語聴解（3 単位）

JPN 421 日本語作文（3 単位）

JPN 425 日本語翻訳（3 単位）

JPN 451 日本語構造論（3 単位）

JPN 458 海外での四年生日本語（4 単位）日本での日本語学習。

JPN 459 海外での四年生日本語（4 単位）日本での日本語学習。458 の続き。

JPN 461 古典日本語概論（3 単位）

JPN 466 古典日本語読解（3 単位）

JPN 485（選択）現代日本語上級読解（3 単位）

JPN 485B 文学／JPN 485C ノンフィクション

JPN 495 実習プログラム（3 単位）

JPN 499 四年生読解指導（単位数は不定）専門読解指導。

JPN 601 日本語音韻論・形態論（3 単位）

JPN 602 日本語統語論・意味論・語用論（3 単位）

JPN 604 日本語教育学（3単位）

JPN 610（選択）日本詩歌（3単位）

JPN 610B 古典／JPN 610C 中世江戸／JPN 610D 現代

JPN 611（選択）現代日本文学（3単位）

JPN 611B 明治大正（1868-1926）／JPN 611C 昭和平成（1926-現在）

JPN 612 江戸文学（3単位）

JPN 613 中世日本文学（3単位）

JPN 614 古典日本文学（3単位）

JPN 631 日本語史（3単位）

JPN 632 第二言語としての日本語教授法（3単位）

JPN 633 日本語社会言語学（3単位）

JPN 634 日本語統語論・意味論（3単位）

JPN 640（選択）日本文学の諸相（3単位）

JPN 640C 日本文学批評史／JPN 640K 漢文／JPN 640T 文学翻訳

JPN 650（選択）日本語学の諸相（3単位）

JPN 650C 日英語比較分析／JPN 650G 構文／JPN 650H 日本語史／

JPN 650K 日本語学史／JPN 650M 形態音韻論／JPN 650P 教授法／

650S 社会言語学

JPN 699 研究・読解指導（単位数は不定）専門読解指導。

JPN 710（選択）日本文学研究ゼミ（3単位）

JPN 710M 現代／JPN 710P 現代以前

JPN 730（選択）日本語学研究ゼミ（3単位）

JPN 730C 日英語比較分析／JPN 730G 構文／JPN 730H 日本語史／

JPN 730K 日本語学史／JPN 730M 形態音韻論／JPN 730P 教授法／

JPN 730S 社会言語学

JPN 799 日本語教育学

「東アジア言語文学」(East Asian Languages and Literatures) として提供されているもの（日本語関係のみ抽出）は次のとおりである。

EALL 271 翻訳された日本文学——古典（3単位）

EALL 272 翻訳された日本文学——現代（3 単位）

EALL 273 日本文学概説（3 単位）甲南大学での授業。

EALL 360 東アジアの文学的伝統（3 単位）

EALL 371（選択）日本古典文学（3 単位）英訳による。

EALL 371B 散文／EALL 371C 韻文

EALL 372（選択）日本現代文学（3 単位）英訳による。

EALL 372B 散文／EALL 372C 韵文

「解釈と翻訳」(Interpretation and Translation) として提供されているもの（日本語関係のみ抽出）は次のとおりである。

IT 411J 翻訳技法（日本語）

IT 412J 専門翻訳（日本語）

IT 421 翻訳のための調査技法

IT 422J コンピュータを使った翻訳

IT 431 連続通訳技法入門

IT 432J 連続通訳技法

IT 441J 同時通訳技法入門

IT 442J 同時通訳技法

IT 451J 初見翻訳入門

IT 452J 初見翻訳

「教育学」(Education--Curriculum and instruction) として提供されているもの（日本語関係のみ抽出）は次のとおりである。

EDCI 641D 日本語教育学ゼミ

以上が授業科目名であるが、日本語で学士号を取得するには最低 36 単位が必要で、その中には次の科目が含まれていなければならない。

（1）以下の科目のすべて（15 単位）

JPN 350 日本語学概論（3 単位）

JPN 370 日本社会における日本語（3 単位）

JPN 401 四年生日本語読解（3 単位）

JPN 402 四年生日本語読解（3 単位）

JPN 407E (選択) 四年生原書講読 (3 単位) 現代文学

(2) 以下の科目のどれか一つ以上 (3 単位以上)

JPN 407B 新聞・雑誌

JPN 407C 社会科学

JPN 407D 人文科学

(3) 以下の科目のすべて (6 単位)

EALL 271 翻訳された日本文学——古典 (3 単位)

EALL 272 翻訳された日本文学——現代 (3 単位)

(4) その他関連コースの 12 単位

3 教科書・参考書

JPN 100 初級日本語 (特別) *Situational Functional Japanese Vol.1 Notes + Vol.1 Drills*

JPN 101 初級日本語 *SFJ Vol.1 + 2*

JPN 105 速習初級日本語 *SFJ Vol.1 + 2*

JPN 201 中級日本語 *SFJ Vol.1 + 2, Basic Kanji Book 基本漢字 500 Vol.2*

JPN 202 中級日本語 *SFJ Vol.3*

JPN 211 ビジネス・観光業のための二年生日本語 *Basic Kanji Book 基本漢字 500 Vol.1*

JPN 301 三年生日本語 *Dictionary of Basic Japanese Grammar, An Integrated Approach to Intermediate Japanese*

JPN 302 三年生日本語 (4 単位) *The Modern Reader's Japanese-English Character Dictionary (by A. Nelson), An Integrated Approach to Intermediate Japanese*

JPN 307 特別読み書き日本語 *SFJ Vol.2*

JPN 350 日本語学概論 *The Languages of Japan (by Shibatani)*

JPN 401 四年生日本語読解 *Intensive Course in Japanese, Intermediate, The Modern Reader's Japanese-English Character Dictionary (by A. Nelson)*

JPN 402 四年生日本語読解 *Intensive Course in Japanese, Intermediate, The*

- Modern Reader's Japanese-English Character Dictionary* (by A. Nelson),
Kenkyusha's New Little Japanese-English Dictionary
- JPN 407B 新聞・雑誌 *Gone Fishin'* (by J. Rubin), *Instant Vocabulary through Prefixes and Suffixes* (by T. Vance), *How to Read a Japanese Newspaper*
- JPN 407D 人文科学 *Gone Fishin'* (by J. Rubin), *Instant Vocabulary through Prefixes and Suffixes* (by T. Vance)
- JPN 407E 現代文学 『広辞苑』, *Handbook of Modern Japanese Grammar* (by Y. McClain)
- JPN 421 日本語作文 *Effective Japanese Usage Guide* (by M. Hirose & K. Shoji)
- JPN 451 日本語構造論 *An Introduction to Japanese Linguistics* (by N. Tsujimura)
- JPN 461 古典日本語概論 『岩波古語辞典』 *Bungo Manual* (by H.C. McCullough)
- JPN 601 日本語音韻論・形態論 *Phonology* (by R. Lass)
- JPN 604 日本語教育学 *Research in Language Learning* (by A.O. Hadley)
- JPN 633 日本語社会言語学 *Sociolinguistics* (by R.A. Hudson)
- JPN 650S 社会言語学 *Approaches to Discourse* (by D. Schiffrin)
- JPN 799 日本語教育学 *Second Language Teacher Education* (by J.C. Richards & D. Nunan)

従来、ハワイ大学出版局から『これからの日本語 *Japanese Now*』という教科書が出版されていたが、これはハワイの高校生用の教科書であり、大学では使われていなかった。ハワイ大学では *Learn Japanese: New College Text* (by J. Young) から、*Beginning Japanese* (by E. Jorden) に変更され、その後、改訂版の *Japanese: The Spoken Language* (by E. Jorden & Noda M.) になったが、1994年から順次、筑波の *Situational Functional Japanese* に変更されたようである。『筑波大学留学生センター日本語教育論集』第9号(1994年2月)の「あとがき」には、「Situational Functional Japanese も、嬉しいことに海外で採択頂けるところが確実に増加している。ロンドン大学(英)、ウーロンゴン大学(豪)、パデュー大学、マカレスト大学(以上、米)にはじまって、最近ハワイ大学でも採択が決定されたとの報を受けた。投票による厳しい競争の結果であったと聞く。日

本語関係だけで、年2,500名の学生を擁する大学で、将来にわたって本教材が真価を問われることになった。」とある。その投票は34対12だったそうである。

4 時間割・クラス数

第1時限目は朝の7時30分から8時20分まで、10分の休憩の後、8時30分から9時20分までというふうになっていて、1コマが50分の授業である。また、受講生が多くて、複数のクラスを提供している科目は以下のとおりである(1997年春学期)。

JPN 100	初級日本語	(特別)	(3 単位)	10 クラス
JPN 101	初級日本語	(4 単位)		8 クラス
JPN 102	初級日本語	(4 単位)		20 クラス
JPN 201	中級日本語	(4 単位)		16 クラス
JPN 202	中級日本語	(4 単位)		15 クラス
JPN 301	三年生日本語	(4 単位)		3 クラス
JPN 302	三年生日本語	(4 単位)		3 クラス
JPN 407B	新聞・雑誌			2 クラス
JPN 407E	現代文学			2 クラス

5 教員名

日本語関係の教授 (Professors) としては、

HIJIRIDA, Kyoko (聖田京子); REYNOLDS, Katsue Akiba; VIGLIELMO, Valdo
準教授 (Associate Professors) としては、

ASHWORTH, David; COOK, Haruko Minegishi (日本語の主任); HAIG, John;
HUEY, Robert; MATHIAS, Gerald; OCHNER, Nobuko; SERAFIM, Leon A.;
TAHARA Mildred; THORNHILL, Arthur

助教授 (Assistant Professors) としては、

COHN, Joel; KANNO, Kazue; LOWER, Lucy; NAGAHARA, Hiroyuki; VOVIN,
Alexander; YOSHIMI, Dina Rudolph

専任講師 (Instructors) としては、

CURRY, Stewart; HAYASHI, Irmina; HIRATA, Keiko; HIRATE, Susan; HITO-SUGI, Ikumi; IWAI, Ikumi; KITSUTANI, Kathy Seiko; KLAFEHN, Terry; KOBUKE, Lisa; KONDO, Kimi; LACHMANN, Masami; LIM, Dianne; MASUNAGA, Karen; NAKAHARA, Gladys; NAKAZAWA, Akio; OGASAWARA, Miki; OGAWA, Dennis; OMURA, Janice Kei; OTA Hiro Justin; RAY, Grace E.; SHIMIZU, Hisaaki; SHOJI, Kakuko; STEVERSON, Misako; TAKESHITA, Sachiko; TATEYAMA, Yumiko; WADA, Yuka; WONG, Sandra; WOO, Chi Kwong Patrick; YAMAMOTO, Keiko O.; YOKOMIZO, Shinichiro (横溝紳一郎); YOSHIOKA, Keiko

非常勤講師 (Lecturers) としては、

MATSUNAMI, Shinya; SAFT, Scott; YANAGISAWA, Miwako。非常勤講師と専任講師の違いは、社会保険が付いているか否かの違いのようである。

院生助手 (Graduate Assistants) としては、

HECHT, Spencer; McMEEKIN, Abigail; OHARA, Yumiko; RILEY, Barbara; SELIGER, Isabel; SMITH, Patricio S. Kamealoha; TOKUDA, Miho。院生助手は、1 学期の実習ののち採用されるとのことである。

以上、59名の教員である。

教員は、原則として年間 20 単位分をノルマとしている。通常の 1 科目は 4 単位であるから、年間 5 科目、例えば、春学期が 3 科目であれば、秋学期は 2 科目がノルマである。ただし、1 科目は毎日 1 コマ (50 分) ずつあるので、ノルマは少ないとは言えないようだ。

6 学生数

ハワイ大学では、日本語のコースをとる学生数は、全米の各大学で日本語をとる学生総数と同じであるとさえ言われている。正確な数字は把握できないが、約 2500 名ぐらいと推定される。

7 特徴

各学期は平均約 75 時間で、筑波の教科書を 3 卷まで 2 年間で終了させるので、各学期ごとに 6 課ずつ進む。

テストは学期の中間、期末、それに各課ごとのレッスン・テストがあり、期末にはオーラル・テストもある。

上記のように、2年間で筑波を終了させるが、4年生には原書講読などがあり、3年生の間のカリキュラムが大きな問題のようである。

以下に、JPN 101 の進行表の要約をしておく（1996年春学期）。

日付		教室活動（教科書）	宿題提出	その他
1.10	水	リエンテーション		
1.11	木	Notes pp.(30)-(35)		挨拶と慣用表現
1.12	金	Notes pp.(24)-(29)	ひらがな 2-5	挨拶と慣用表現
1.15	月	祝日		
1.16	火	Notes pp.(14)-(19)	ひらがな 6-9	挨拶と慣用表現
1.17	水	Notes pp.(20)-(23)	ひらがな 10-3	挨拶と慣用表現
1.18	木	Notes pp.(48)-(58)	ひらがな 14-7	挨拶と慣用表現
1.19	金	Drills pp.v-x Notes pp.(6)-(12)	ひらがな 18-22	挨拶と慣用表現の小テスト
1.22	月	Notes 会話・文法 I・II・IV	ひらがな 23-6	
1.23	火	Drills pp.CD1-7	ひらがな 27-2	
1.24	水	Notes 文法 II・V Drills pp.SD8	ひらがな 33-7	
1.25	木	Notes 会話 1・2 Drills pp.SD1-2	タスク1	
1.26	金	Notes 会話 3・4 Drills pp.CD5	タスク3	ひらがな小テスト
1.29	月	Notes ストラテジー 1-3 Drills pp.CD3-4, SD9-10		
1.30	火	Drills pp.CD8 (ローリング)		
1.31	水	口頭評価		
2.1	火	第1課小テスト		
(中略)				
2.14	水	第2課小テスト		
(中略)				
3.1	金	中間テスト		
(中略)				
3.15	金	第4課小テスト		
(中略)				
4.29	月	口頭テスト		
4.30	火	口頭テスト		
5.1	水	口頭テスト		
5.2	木	授業終了		
5.3	金	自習期間開始		
5.8	水	最終テスト		

III ハワイ大学内の日本語教育関係機関

1 日本学研究センター (Center for Japanese Studies)

このセンターは1987年に設立されたハワイ・アジア・太平洋学部 (School of Hawaiian, Asian and Pacific Studies) の一部として創設された（上記I-3-⑧参照）。また、連邦政府の教育局によって、ハワイ大学の中国学研究センターと韓国・朝鮮学研究センターと合同で国立東アジアリソースセンターとして認知されている。また、このセンターのメンバーは以下の5部門からの兼任である。

- ① 文理学部群
- ② 経営学部
- ③ 教育学部
- ④ ハミルトン図書館 (アジア・コレクション)
- ⑤ サマー・セッション部

2 文理学部群のその他の学科

芸術学科、地理学科、歴史学科、ジャーナリズム学科、哲学科、政治学科、宗教学科、社会学科、スピーチ学科、演劇学科、言語学科が日本学関連の科目を提供している。

3 経営学部

経営学部では特に、日本で15ヵ月の日本語・日本文化及び会社研修の集中プログラムを提供している。

4 ハミルトン図書館

ハミルトン図書館の4階には全米一ののアジア・コレクションがあり、特に日本関連としては、10万5千冊の和書と679の日本語定期刊行物、及び3万5千冊の洋書と437の西洋語の定期刊行物を所蔵している。

5 シンクレア図書館

シンクレア図書館の3階には視聴覚センターがあり、日本学関連としては、

143 タイトルの視聴覚教材がある。

6 サマー・セッション部

サマー・セッションは1996年度は5月13日から6月21日までの第1期と6月24日から8月2日までの第2期に分かれており、それぞれ下記の科目が提供された。

JPN 101 初級日本語（4単位）、JPN 102 初級日本語（4単位）、JPN 201 中級日本語（4単位）、JPN 202 中級日本語（4単位）、JPN 301 三年生日本語（4単位）、JPN 302 三年生日本語（4単位）、JPN 370 日本社会における日本語（3単位）敬語、JPN 401 四年生日本語読解（3単位）、JPN 402 四年生日本語読解（3単位）。

7 イースト・ウエスト・センター

正式な名称はCenter for Cultural and Technical Interchange between East and West, Inc.と長いが、文字通り、環境・人口・資源・コミュニケーションなどの技術分野、あるいは文化面で東西の交流を図ることを目的として、1960年連邦政府によって設立された、研究・研修機関である。研究のために全世界から学者が派遣され、研修を目的とする選抜学生には、奨学金を受けながらハワイ大学で勉強する特典が与えられている。

連邦立であっても、完全な独立機関で、州政府とも行政上の関係はない。ただ、18人構成の「理事会」には、ハワイ大学総長のほかに、州知事、州知事任命のハワイ州住民5人、合衆国国務次官、国務長官任命の5人のメンバーが加わる。

8 日本人留学生について

① 留学生数

留学生（外国人）の1993年春学期の総数は1785人で、1991年の同時期に比べると93人の増加となった。このうち、男子学生は938人（53%）、女子学生847人（47%）となっている。また、留学生のうち1075人は大学院生で、学部

留学生は 710 人となっている。

出身地別留学生数は次のとおりである。

アフリカ 17 人、アメリカ大陸 77 人、ヨーロッパ 103 人、中東 8 人、太平洋 51 人、アジア 1529 人（南アジア 138 人、東南アジア 269 人、東アジア 1124 人（その内、中国 397 人、香港 290 人、日本 194 人、韓国 102 人など））となっている。

② 外国語としての英語教育

（1）English Language Institute (ELI)

これは第二言語としての英語学科に属しており、ハワイ大学の正規の留学生のための英語教育プログラムである。我々の留学生日本語教育センターに相当するプログラムである。

（2）Hawai'i English Program (HELP)

「ヘルプ」という名前のこのプログラムは高卒以上で大学入学を目指している人たちに英語教育をするプログラムである。10 週間で、1 月・4 月・7 月・10 月にそれぞれ始まる。

（3）New Intensive Courses in English (NICE)

この「ナイス」プログラムはサマー・セッション部に属しており、週 20 時間 10 週間のプログラムで、年中開講されている。受講資格の制限はない。

IV ハワイ大学以外の日本語教育機関

1 短期大学

各島にあるハワイ大学付属短期大学でも日本語の授業が行われている。例えば、ハワイ島コナ市にあるハワイ短期大学では、

JPN 101 初級日本語（4 単位）毎日 1 時間の授業。

JPN 102 初級日本語（4 単位）101 の続き。

JPN 121 初級日本語会話 I（3 単位）

JPN 122 初級日本語会話 II（3 単位）

の 4 科目が提供されている。他の短期大学でも同じ程度の科目が提供されているようだ。

2 私立大学

例えば、ホノルル・シャミネード大学は、男女共学のカトリック系大学であるが、宗教による入学制限はない。小規模な大学だが、第二言語としての英語コースもあり、日本の立命館大学、同志社大学とも提携、両大学に1学期あるいは1年留学することもできる。

3 高等教育機関以外の機関

① 日本語学校

戦前のハワイにおける日本語学校というのは、日本人学校であった。ハワイに最初の日本語学校が作られたのは1893年で、日本・ハワイ両政府間の合意で発足した官約移民のハワイ到着後8年目のことであった。ハワイ島コハラ教会の牧師が、コハラ製糖会社で働いていた人を教師に選び、コハラのハラワ小学校の校舎を借りて日本語学校を開設した。このとき、約30人の生徒が集まったそうである。

戦後、日本語学校に通学する生徒の数がピークに達したのは1954年の1万4千人である。1967年以降は年々減少し、1993年度には生徒数1605人になった。

② 公立学校

小学校レベルから日本語を教える学校もあり、1990年度で、小学校で約6千人が日本語を学び、中・高校では約9千200人が日本語を学んでいる。私立高校でもほとんどが日本語科を設置している。

③ 成人学校

各地の公民館における教養講座の一つとして語学講座があり、英語・ハワイ語・中国語・日本語などが教えられている。そのほとんどが無料か非常に安い受講料である。

このように、戦前から戦後しばらくの間は、ハワイの日本語教育は、日系人の機関・団体の経営する日本語学校が主体となってきたが、現在では、公立・私立学校からハワイ大学・私立大学・成人学校などに主体が移ってきた。

4 日本への留学

日本学研究センター（Center for Japanese Studies）は、同志社大学・南山大学・上智大学と1年間の交換プログラムを提供している。

また、ハワイ大学留学センターは甲南大学と提携して、Year-in-Japan-Programを提供している。

また、各学科によって交換プログラムがあるところもある。

もちろん、日本政府留学生制度も利用されている。

V ハワイの日本語環境

1 人口構成

1990年の統計によれば、ハワイ州の人口は約110万8千人で、人種別によると、白人は26万3千人（24%）、日系人22万2千人（20%）、混血ハワイ人19万6千人、フィリピン系12万7千人、中国系5万1千人、アフリカ系（黒人）1万6千人、韓国・朝鮮系1万2千人、ハワイ人9千人、サモア系3千人、ペルトリコ系3千人となっている。

また、家庭で話されている言語は当然のことながら、英語のみの家庭が75.2%、日本語6.8%、タガログ語5.4%、イロカノ語2.6%、（北京語を除く）中国語2.5%、その他7.5%となっている。

2 日本学関係機関

ハワイには日本学関係の機関が多く、様々な活動を行っている。その主なものを列挙しておくと、ビショップ博物館、日本総領事館、ハワイ沖縄センター、ホノルル美術館、JAIMS、日米協会、日本文化センター、PACIFIC、手鞠、ハワイ大学着物文化講座、裏千家財団などである。

3 観光業

砂糖産業やパイナップル産業も全くだめになってしまったハワイでは、その経済を米軍基地と観光業に依存している。その観光業で一番多いお客様は日本人である。当然のことながら日本語ができるということは給料にも影響してくる。

4 マスコミ

日本語のマスコミは新聞では、ハワイ報知（日刊）1紙がある。週刊誌ではイースト・ウエスト・ジャーナル（同誌はワイキキで共同通信のニュースを週3回発行している）、月刊誌には、パシッフィック・プレスとコギクがある。テレビでは、KIKU（無料）とNGN（有料ケーブル・テレビ）の2つの放送局があり、数時間遅れでニュースを流している。また、ラジオではKZOOとKJPNの2局があり、局独自の番組や日本の放送局と同時中継の番組などを放送している。

5 州立図書館

ハワイには十数か所の図書館があり、そのほとんどに日本語の書籍が所蔵されている。

以上のように日本語学習者が日本語にアクセスしようと思えば、ほとんど日本にいるのと変わらないぐらいの日本語の情報量がある。その意味では、アメリカ本土や他の外国の日本語学習者とはかなりの差がある。

VI ハワイの将来の日本語教育

1 環太平洋地域の中心としてのハワイ

ハワイにイースト・ウエスト・センターが存在していることに象徴されるように、ハワイが環太平洋の真ん中にあるということの意味は大きい。東アジアにおいてはすでに日本語が地域補助語としての役割を果たしていると思われるが、その地域がハワイにまで広がる可能性は非常に高い。現に、ワイキキまでは日本語の地域が広がっている。

2 遠隔教育

ハワイに来て目立つことの一つにインターネットの活用がある。ハワイ大学にはそのための設備が数か所にあって、学生が大いに利用している。「コンピュータを使った翻訳」などの授業はもちろんその他の授業でも電子メールなどを大いに活用している。

VII 日本での課題

我がセンターで以前から問題になっていたことの一つに来日前の日本語学習をどのように指導するかということがある。その一つの手段として、インターネットを使って、学習してもらうということができるのではないかと思う。センターのコンピュータに接続して、学習するということである。それには、センターの側で教材を準備しなければならないが、当面は従来から蓄積したものを使用できるのではないだろうか。

イースト・ウエスト・センターでは連邦政府の予算の削減によって思うようなプログラムができなくなっているが、その穴埋めとして同窓会の活用を考えている。我々のセンターでも数多くの修了生がいるにもかかわらず、組織化はなされていない。各国に同窓会が組織できれば、これらを通しての活動も大いに考えられよう。

(本報告は1996年3月17日から1997年1月15日まで文部省在外研究員[イースト・ウエスト・センター客員研究員]としてハワイに滞在している間に取材したものである。この機会を与えてくださった大阪外国语大学の関係者、特にご迷惑をかけた留学生日本語教育センターの諸先生に心から感謝する。)

<「ハワイ」の表記について>

ハワイ語で「ハワイ」のことを Hawai'i とローマ字表記するが、i と i の間の'の文字をオキナといって声門閉鎖音を表す。

日本語の表記で声門閉鎖音は「アッと驚く為五郎」のように「っ」で表されることが多い。ハワイ語では'は必ず母音と母音の間に来るから、日本語の長子音(促音)ではないので、「ハワイイイ」と表記することは合理的である。もう少し詳しく表記すると「ハヴァイイイ」という書き方が最も正しい。ちなみに、最近出版された本で『ハワイイ紀行』という本があった。しかし、ここでは慣用的な「ハワイ」という表記にした。

参考文献

- 1 日本語文献（あいうえお順）
 - 鮎沢孝子 1982 「ハワイ大学の東亜言語学科のこと」『音声学会会報』169
 - イースト・ウエスト・ジャーナル社編 1988 『新ハワイ百科』イースト・ウエスト・ジャーナル社
 - 岩井智子 1996 「ハワイ大学」『月刊日本語』1996年6月号、アルク
 - 国際交流基金編 『海外日本語教育機関一覧』国際交流基金

- Jolly, Yukiko S. 1974 「ハワイ大学における日本語教育」『日本語教育』24号
筑波大学留学生センター編 1994 『筑波大学留学生センター日本語教育論集』第9号
長柄 的 1991 「米国・カナダの日本語教育」『講座日本語と日本語教育 第15巻 日本語教育の歴史』明治書院
中嶋弓子 1993 「ハワイ・さまざまなる楽園—民族と国家の衝突」東京書籍
新田文輝 1995 「戦前の苦難、戦後の復活」『月刊日本語』1995年2月号、アルク
日本語教育学会編 1982 『日本語教育事典』大修館書店
平高史也 1996 「ハワイにおける日本語教育史」『月刊日本語』1996年1月号、アルク
山中速人 1993 「ハワイ」岩波新書
横溝紳一郎 1996 「ハワイ」『月刊日本語』1996年8月号、アルク
ララビー澄 1973 「ハワイ大学における日本語教育」『日本語教育』19号

2 英語文献 (ABC順)

- Center for Japanese Studies (1988). *A Guide to Japanese Studies 1988-89*. University of Hawaii.
Center for Japanese Studies (1993). *A Guide to Japanese Studies 1993-95*. University of Hawaii.
Center for Japanese Studies (1996). *A Guide to Japanese Studies 1996-98*. University of Hawaii.
Centers for Chinese, Japanese and Korean Studies (1996). *East Asia*. University of Hawaii.
Department of East Asian Languages and Literatures (1996). *EALL Newsletter*. University of Hawaii.
Fukuoka Unesco Association (1994). *Overseas Japanese Studies Institutions*.
Gateway Japan (1994). *Academic Focus Japan: Programs and Resources in North America*.
Honolulu Advertiser(eds.) (1996). *The Island Life Answer Book*. Honolulu: The Honolulu Advertiser.
Japan Foundation (1995). *Directory of Japan Specialists and Japanese Studies Institutions in the United States and Canada*. Ann Arbor: Edwards Brothers Inc.
Jorden, Eleanor H., with Richard D. Lambert (1991). *Japanese Language Instruction in the United States: Resources, Practice, and Investment Strategy*. Washington D.C.: National Foreign Language Center.
Kasper, Gabriel (ed.) (1992). *Pragmatics of Japanese as Native and Target Language*. Honolulu: Second Language Teaching and Curriculum Center, University of Hawaii.
Kellogg, Guy, and John Winieski (eds.) (1994). *Hawaii International Language Resources Directory*. Honolulu: Office of International Relations, Office of the Governor: Center for International Business Education and Research, University of Hawaii.
Kinokuniya Bookstores (eds.) (1996). *Books on Japanese Language Spring 1996*. New York: Kinokuniya.

- Matsunaga, Sachiko (1995). *The Role of Phonological Coding in Reading Kanji*. Honolulu: Second Language Teaching and Curriculum Center, University of Hawaii.
- Sato, Esther M., Masako Sakihara, and Loren I. Shishido (1983). *Japanese Now: Teacher's Manual Volume 2*. Honolulu: University of Hawaii Press.
- Study Abroad Center (1996). *Year-In-Japan Program*. University of Hawaii.
- Unger, J. Marshall, Fred C. Lorish, Mari Noda, and Yasuko Wada (1993). *A Framework for Introductory Japanese Language Curricula in American High Schools and Colleges*. Washington D.C.: National Foreign Language Center.
- University of Hawaii (eds.) (1995) *Hawaii Community College 1995-1996 Catalog*. Hilo: University of Hawaii.
- University of Hawaii (eds.) (1995) *1995-97 UH Manoa General and Graduate Information Catalog*. Honolulu: University of Hawaii.
- University of Hawaii (eds.) (1996) *Summer Session 1996*. Honolulu: University of Hawaii.

<キーワード> Situational Functional Japanese, 遠隔教育, 環太平洋, 日本語環境

Japanese Education at the University of Hawaii

Susumu YAMAMOTO

This report is the one that a Japanese education at the University of Hawaii was described. A Japanese language environment in Hawaii is very much different from that of US mainland and other foreign countries.

Moreover, the possibility of a distant education of Japanese language in Japan was suggested. This report is the one having done from March, 1996 through January, 1997.